



特集

未来の地球のためにできること

企業における エコ活動最前線

環境問題については、洞爺湖サミットのメインテーマになるなど近年、世界中で論議されている地球規模での重要な問題ですが、あまりにも大きなテーマであり、一般市民としても、企業としてもどう対応していけばよいのか難しい問題です。環境問題への取り組みとして代表的なものは、省エネによるCO₂削減やリデュース・リサイクル・リユースなどが挙げられます。今回は、こういったエコ活動に積極的に取り組んでいる企業にスポットをあて、エコ活動の必要性や進め方などについて考えてみます。



上/9月から始まったレジ袋と卵パックの回収箱。左/店内ではエコバックも販売中。右/入り口に並ぶリサイクルボックス。乱雑になりがちな自販機は撤去し美観を整えています。

一歩先行くリサイクル活動

岩手県では企業におけるエコ活動を推進するため平成16年度に「エコシヨップいわて認定制度」と「いわて地球環境にやさしい事業所認定制度」をスタート、環境問題に積極的に取り組む企業を認定してきました。

「エコシヨップいわて認定制度」の認定第1号は(株)ジョイス。ジョイスはエコシヨップとして、ゴミの減量化、リサイクルの促進、小売店の排出抑制などに取り組んでいま

すが、中でも注目されている活動がリサイクルです。

小薊米渟一社長の「自社で販売したものはゴミに出さないう、それが販売者の使命」との強い思いから、売ってそれつきりではなく、リサイクルできるものは極力回収する取り組みを20年近く前から始めています。

牛乳パックから レジ袋まで

牛乳パックの回収を皮切り
に空き缶、トレー、電池、ペ
ットボトルと品目を増やして

きました。「空き缶はアルミ缶の他にスチール缶も回収

また、ペットボトルはキャップも回収しています。」と、回収の先頭に立つ(株)ジョイス管理本部環境対策担当の松岡親史さんは話します。さらに今年の9月からは、レジ袋、卵パックのリサイクルも始めました。

マイバッグの販売やポイント制度、レンタルかごなど、レジ袋削減のため様々な取り組みが行われています。それでもジョイスが1年間に消費するレジ袋は約210トン。

首都圏では、進まないマイバッグ促進のためにレジ袋の有

料化を図る店も出てきています。「当社はたとえわずかでもお客様にご負担を強いるのは好ましくないと考えから、レジ袋の回収を始めることにしました」と松岡さん。今回の試みの最大の特長は他社配布品も回収する点です。

こうした新しい視点での活動は、日経新聞などにも取り上げられ、注目されています。

リサイクル活動の効果

回収したレジ袋と卵パック

は、昨年6月に花巻に開設した自社のリサイクルセンターに集め、そこからリサイクル工場へ運搬、ペレット状に加工し、国内メーカーに供給します。レジ袋は交通標識用ポールなど、また、卵パックはカーテン、カーペットなどの商品化に有効利用されます。

「リサイクル活動はゴミの減量になりますし、お客様の環境意識も年々高まってきています。リサイクル活動に賛同いただき、ファンになっていただくことでお客様が増えるなど、レジ袋の回収には経

右／「ペットボトルのキャップも貴重な資源」と松岡さん。左／店内カウンターに並ぶ「エコショップいわて」と、「盛岡市レジ袋使用量削減協力店」の認定証。



「エコショップいわて」と松岡さんは企業メリットを話してくれました。ジョイスでは今後もリサイクルを進めるため、野菜などの生ゴミにおけるリサイクルループにも取り組んでいく予定です。

無駄なことをしない「エコ」

東野建設工業(株)は盛岡市内の建設業者で唯一「いわて地球環境にやさしい事業所認定」4つ星認定(平成20年8月現在)を受けている企業です。「うちクルビズだから。」とノーネクタイで登場した東野久松会長。「うちの活動はこの事業所でもやっていること」と前置きし、軽いフットワークでできるエコ活動を紹介してくれました。「必要のない電気はまず消す。朝礼もお昼時間も電気を消してい

ます。室温は夏28度、冬20度で設定、食器類は水で洗う、待機電力ももつたいないのでコンセントを抜く、急発進など「急」のつく運転は禁止」など、常に生活者と同じ「無駄なことをしない」を心掛けています。

また、植林活動もCO₂排出量削減に換算できることから、(社)東北地域環境計画研究会などが主催する松尾鉦山跡地の「森の再生活動」にも毎年参加しています。

エコは社会貢献の一環

なぜエコ活動に取り組むようになったのかとお聞きしたところ、現社長の東野久晃氏と社員が策定した社の経営理念のひとつに掲げられている「私たちは、自然と環境を大切にし、地域社会に貢献します。」を具体的な活動の形に表すためと答えてくれました



上から／東野建設工業の「いわて地球環境にやさしい事業所」の4つ星の認定証／主に市産材を利用した盛岡市立浜民小学校。／漆喰の壁、米粉、天然無垢材、天然石など、天然素材を生かす住宅を展開中。化学物質過敏症のお客様に好評。

た。近隣にある公共地下道の天井掃除も、年に1度の東野祭という夏まつりイベントも、これらのエコ活動も、すべては社として、どう社会に貢献するかという発想が原点となっているとのこと。

「エコを突き詰めると、自然のものを使い、科学的なものを減らすことにもなる」との会長の話はまさにリデュース。自社で漆喰や柿渋を使う住宅や、県産素材を建物に使うのもその一環といえます。

「CO₂削減の究極は産直ですよ」と東野会長。森林が保全されることによりCO₂の分解が進み、運送のためのCO₂排出も少なくすむからです。

「地域社会やお客様に満足を与えることが会社の存続につながります。携わる業種は様々でも、それぞれが取り組めるエコ対策はあるはず。これからは、環境対策なしで企



「クールビズは楽でいいよね」とエコを楽しむ東野会長

業は存在できないでしょう」と東野会長はきっぱりと話してくれました。

当所の環境問題への取り組み

東野会長は、当所の「環境問題特別委員会」委員長も務めています。同委員会では手軽に取り組める活動として「CO₂の削減コンテスト」と「廃棄物リサイクル推進事業」の2つのテーマに取り組んでいます。「CO₂削減コンテスト」では削減率の対前年比をもの指しにする案に対して、既に取り組みを進め、乾いた

雑巾をしぼるような企業と、これから取り組む濡れた雑巾をしぼるような企業があり、前年比だけでは評価できない、また事業規模が異なるため単純にデータだけでは比較できないといった意見が出されています。「しかし、それに躊躇しては先へ進めません」と東野会長。委員会では、こうした議論を通じて、会議所が足並みを整えて取り組めるエコ活動について目下検討中です。委員会の提案をもとにして、当所では具体的なエコ活動を一步でも進めるための取り組みを提案していきます。

取材／「SANS A」企画編集委員会

あなたも“エコピープル”に！ (eco検定合格者)

盛岡商工会議所では、環境社会検定試験(通称:eco検定・東京商工会議所主催)を実施します。7月の試験(盛岡会場)では56名の“エコピープル”が誕生しました。

試験日 平成20年12月21日(日)
申込期間 10月7日(火)～11月7日(金)
※詳しくは、<http://www.kentei.org/eco/>